

壁紙施工要領書
- 美術館・博物館用織物壁紙 -

【該当商品】
(2023-2026WILL)
LWT-829~832

■ **特長**

- ・文化財の保護を目的とした織物壁紙です。防炎剤に配慮し、空気室環境を中性雰囲気
に保ちます。

■ **下地調整**

- ・施工後の、下地の不陸の目立ちを避けるために、下地面はできるだけ平滑に仕上げるよ
うにしてください。
- ・下地面に汚れやチョーク等による文字などが残っている場合は除去するようにしてくだ
さい。
- ・パテは下地と同色のものを使用するようにしてください。
- ・張り替えの際、裏打ち紙が下地面に浮いた状態で残っている場合は、必ず剥がしたあと
施工するようにしてください。浮いた所の上で施工しますと、目開きの原因になります。

■ **接着剤**

- ・糊付け機を使用しての糊付けは可能です。
- ・接着剤は原液タイプをお薦めします。希釈タイプ使用の場合は糊：水＝10：6～7にエチ
レン酢ビ系ボンドを10～20%程度混合してください。また、塗布量は多めにしてくださ
い。(このエチレン酢ビ系のボンドを混合しますと、接着剤の乾燥が早まりアイハギの発
生時間も早くなりますので注意が必要になります。)

【壁紙施工要領書 - 美術館・博物館用織物壁紙 -】

- ・濃度の薄い接着剤は糊が吸い込まれてしまい、接着力が落ちる他に、壁紙を余計に延ばして、後の目開きの原因にもなります。
- ・粘りの強い接着剤を使用すると、糊溜まりの原因になりやすいので注意してください。
- ・壁紙表面に接着剤などをつけたまま放置しますと変色の原因になりますので、ただちに拭き取るようにしてください。

■養生・オープンタイム

- ・接着剤塗布後は、うませ時間を10～15分程度、施工可能時間は60分以内を目安に作業を進めてください。
- ・タタミジワを防ぐため、糊付け後は必ず大きくたたんで上積みは避けてください。

■なで付け・ジョイント

- ・ジョイント部分のなで付けは横方向には行なわないようにしてください。材料を引っ張ってしまうことになり目開きの原因になります。
- ・ローラー掛けの際は、商品表面に接着剤が付着しないようご配慮ください。タテ糸がほつれやすくなります。
- ・なで付けの際はやわらかな刷毛を、ローラー掛けの際はウレタン製のものを使用してください。あまり強く擦るとテカリが生じる場合があります。
- ・ジョイントが目立ちやすい傾向にありますので、カーターは薄刃のものを使用し、こまめに替えて常に鋭利な状態でお使いください。
- ・壁紙表面に接着剤等が付着した場合は、直ちにきれいな水で拭き取ってください。変色の原因になります。また、商品表面に水分がつかないようにご配慮ください。商品がカールしたりほつれたりする場合があります。
- ・柄（リピート）のある商品は、柄の大きさに差異が生じ、柄合わせが困難な場合があります。目線優先で柄合わせをするなどの配慮をお願いします。

■その他

- ・施工後は、外気や冷暖房などによる急激な室温の変化を避けるようにしてください。目開きやハガレ等の原因になります。